

論文審査の結果の要旨

氏名：佐々木 善 浩

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：上部消化管出血に対する緊急内視鏡治療の必要性の検討

審査委員：（主 査） 教授 後藤田 卓 志

（副 査） 教授 山 下 裕 玄 教授 早 川 智

教授 木 下 浩 作

本論文は、上部消化管出血に対する緊急内視鏡治療の必要性の予測に関する検討である。予後を評価するスコアはあるが、主論文として提出された内容は、治療の必要性を評価する新たなスコアを提唱するものであり臨床的意義が高い研究である。

上部消化管出血は、消化器領域の主要な疾患の一つであり、時に致死的である。一方で、実臨床においては緊急内視鏡を施行しても内視鏡的止血術が必要なものは多くない。上部消化管出血の患者の予後や治療の必要性を評価したスコアは多く報告されているが、緊急内視鏡治療の必要性の有無を的確に判断するためのスコアは少ない。

本検討では、内視鏡を含む止血処置と関連する因子を抽出し、止血処置とより相関する新たなスコアモデルを作成し、Glasgow-Blatchford Score (GBS)、AIMS65 スコア、近年報告された MAP スコア、Modified GBS および本邦で報告された Iino スコアとを比較し、緊急内視鏡検査等での止血治療の必要性を予測できるスコアの作成を目的とした。

対象は、2015年1月から2019年12月にかけて吐血や黒色便、失神、貧血など上部消化管出血が疑われる症状で救急搬送あるいは外来を受診し非静脈瘤性上部消化管出血が疑われ、受診後6時間内に上部内視鏡検査を受けた675名である。内視鏡的止血術とは、内視鏡時に何らかの止血処置を行ったものとした。止血処置に関連する因子として、血圧 ($P=0.0283$)、BUN ($P<0.001$)、Hb ($P=0.0037$)、吐血 ($P=0.0030$)、脈拍 ($P=0.0137$) が挙がり、ロジスティック回帰分析にて新たなスコアモデルを作成した。GBS は従来の報告されているスコアの中で緊急内視鏡検査の止血処置の必要性を予測する上で高い相関性を示した (AUROC:0.721、 $P<0.001$)。しかし、新スコアはカットオフ値3点でGBSより止血処置の必要性を予測するのに優れていた (AUROC:0.732、 $P<0.001$)。予後についても、AIMS65には劣るが高い予測精度を示した (AUROC:0.707、 $P<0.001$ および AUROC:0.686、 $P<0.001$)。

提案された新スコアは、簡便な因子を用いて上部消化管出血患者が疑われる症例において緊急内視鏡を含む止血治療の早期介入を行うべきかどうかの識別に有用であることが示された。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 4年 2月 24日